



すべての子どもにやさしいユニバーサルデザイン

伊丹市立総合教育センター
所長 永嶺 香織

松下電器産業の創業者である松下幸之助氏は、昭和17年(1942年)、戦時中の物不足による商品の劣悪化が進む中、「製品は、親切味、情け味、奥ゆかしさ、ゆとりのあるものを製作し、消費者に喜ばれることを根本的な信念とする」という社主達示を出されました。これが、松下電器にとって、使用者にやさしい、ユニバーサルデザインに基づく製品づくりの原点だと言われています。



教育分野においても、今、教育のユニバーサルデザインを視点においた授業づくりが進んでいます。子どもたちは1日の多くの時間を学校で過ごします。その中でも大半は授業であり、学校の教育活動において最も大切にしなければならないものです。授業においては、分かる喜びを実感できる「授業環境づくり」、安心して過ごせる「教室環境づくり」、分からないことを分からないと言える「人的環境づくり」を進める必要があります。そして、これらの取り組みが、学校全体の取り組みとなっているか、子どもたちの実態に即したものになっているか、教師の視点ではなく子どもの視点に立った実践になっているか等を定期的に点検することが大切です。

そして、教育のユニバーサルデザインを推進する上で、頭に置いておかなければならないことは、教育のユニバーサルデザイン化が目的ではなく、目的は教育のユニバーサルデザイン化を通して、一人ひとりの子どもに「学習指導要領が求める資質・能力」を育成することです。全ての子どもたちが幸せな人生を送ることができるよう、一人ひとりを大切に「分かる・できる」ことが実感できる授業づくりを推進しましょう。

教育のユニバーサルデザイン (UD)

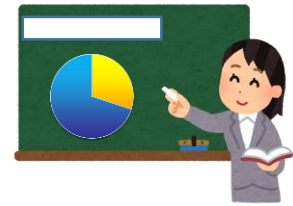
すべての児童生徒にとって、わかりやすく学びやすい教育をデザインするためには、教室環境、人的環境だけではなく、**授業のユニバーサルデザイン化**をすすめることが重要です。また、教育のユニバーサルデザインを個々のクラスや教科で進めるのではなく、**学校全体で取り組む**必要があります。

1. 授業環境UD

・学力の優劣や発達障害の有無に関わらず、**より多くの子どもが楽しく学び合い「わかる、できる授業」**づくり

三本柱【視覚化、焦点化、共有化】と5つの工夫【ひきつける、方向づける、そろえる、むすびつける、実感させる】

学習内容や考え方、資料等を図解や画像などの**視覚情報**として示す



単に図や写真を見せるのではなく、授業の目標に結びつくように「情報の精選」「適切な場面での提示」を行う

視覚化

- ・導入部では視覚刺激を用いて、児童生徒の意識を学習へと**ひきつける**
- ・視覚情報をつかうことで何について学習するのかを自然と**方向づける**
- ・視覚情報で生活経験や知識と**むすびつける**ことで学習意欲をより高められる
- ・意見を視覚化することで理解を**そろえる**

学習目標や内容を絞り込んで授業展開の**構造をシンプル**にする



授業の最も重要なポイントであり、目標を達成する場面でもある「山場」を設定し、「山場」に向けて児童生徒の思考が流れるよう授業を設計する

焦点化

- ・展開部では、児童生徒が戸惑わないように、課題を**焦点化**し、何が今の問題なのかという認識や、どこまで理解できているか理解度を**そろえる**
- ・問題を解決するために何と**むすびつけて**考えるかを**焦点化**することで次の学習活動へと**方向づけ**られる
- ・学習のゴールを**焦点化**することで、「わかった」「できた」を**実感させる**

話し合い活動などで学ぶ内容等を**互いに共有**する



ペアワークやグループワークなど話し合い活動を組織化することで理解を学級全体に広げ、目標に関わる知識や解き方、考え方などを全員で分かち合えるように働きかける

共有化

- ・共通課題で活動内容を**そろえ**、互いに教え合い励まし合いができるようにする
- ・話し合い活動を行うだけでなく、話し合った内容についてまとめる方法を**そろえる**ことで全員に「わかった」「できた」を**実感させる**

2. 教室環境UD

・きまりやルールを「見える化」し、自治的で安心して過ごせる**環境**づくり

1. 刺激の調整

- ・黒板の掲示物は「いつでも見える」もの、授業に必要でないものは極力はずす
- ・授業のポイントや意識づけたいところはあえて目立つ色や大きさで掲示する

2. 児童生徒の目線

- ・教師のこだわりや習慣で作るのではなく、「子どもたちと一緒に作る」という姿勢を持つこと
- ・児童生徒に**当事者意識**が生まれ、掲示物の内容が「自分ごと」になる

3. 日頃の点検

- ・安全な状態か、操作はしやすいか、汚れや破損は無いかな、掲示物の高さは適切か
- ・人が傷ついたり不快になったりする内容は無いかな
- ・その時期の学校生活に適したものか

4. 固定観念にとらわれない

- ・極力ない方が良い、毎年あるものは必要、といった「固定概念」にとらわれずに、児童生徒の実態に合わせる
- ・掲示する目的を明確にする

3. 人的環境UD

・「わからない」「できない」が安心して言える**クラス**づくり

間違うのが
怖いなあ



・授業に対する不安が強く、「**教室は間違うところ**」という考えが根付いていない状態

「わからない」「教えてほしい」という**援助要求スキル**や相手の立場に立って考える**他者視点**を身に付ける**レジリエンス**を育てる

- ・新奇性追求(失敗を恐れず新しいことにワクワクできる)
- ・感情調整(間違いがあっても落ち着いて対応できる)
- ・肯定的未来志向(協力することで解決できると考える)

間違っても
大丈夫!

みんなで
考えよう!



・自分に対してプラスのイメージを持てる

- ・間違ったり困ったりした人がいたときに、一緒に考えることをクラスとしてできるようになることで**集団的肯定感**が育つ
- ・授業での「間違いを昇華」することができる



書籍紹介

ユニバーサルデザインの研究におすすめの書籍を紹介します。
どの書籍もカリキュラムセンターで閲覧できますので
ご利用ください。

『通常学級の
ユニバーサルデザイン
スタートダッシュ
Q&A55』

著 阿部俊彦

ユニバーサルデザインにおける基本的な考え方をQ&A形式で紹介されています。

『人的環境の
ユニバーサルデザイン』

著 阿部俊彦
赤坂真二
川上康則
松久眞実

児童生徒が安心できる環境作りの手立てやクラスづくりにおけるチェックリストを学ぶ子とができます

『授業の
ユニバーサルデザイン
(シリーズ)』

様々な校種、教科におけるユニバーサルデザインを取り入れた授業実践が紹介されています。

『中学校
ユニバーサルデザインと
合理的配慮でつくる授業
と支援（通常の学級で行
う特別支援教育）』

著・編集 花熊 暁
米田 和子

中学校でのユニバーサルデザイン視点での支援方法や学校での取組が紹介されています。

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00
水・土 : 9:00~17:00
休館日 日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>

<教育相談>
電話 072-772-6171 (電話相談)
072-780-2484 (来所相談)
お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
(来所・電話相談)
月・火・木・金 : 9:00~18:00
水・土 : 9:00~17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます

